

2026 年 10 月 16 日

Press Release

報道関係各位

【イベント開催レポート】
AIFN 主催『第 2 回サイエンスセミナー 健康寿命を探究する』を開催
ファイトケミカルス × マイクロバイオーム
— 「植物の力」を活かす鍵とは —

一般社団法人 国際栄養食品協会（AIFN）は、日本アムウェイ合同会社特別協賛のもと、「サイエンス・セミナー・シリーズ 健康寿命を探究する 【第 2 回】ファイトケミカルス × マイクロバイオーム — 植物の力を活かす鍵とは —」を 10 月 16 日（金）に日本アムウェイ合同会社 B1 オーディトリウムにて開催しました。



人生 100 年時代を迎え、“健康寿命の延伸”は個人の QOL 向上のみならず、医療・介護負担の軽減や、労働人口の改善など持続可能な社会の実現に向けた重要な課題となっています。特に超高齢化社会を迎えた日本では、健康維持・増進を支える科学的知見への関心が高まっています。

本プロジェクトは、植物栄養と健康、生活習慣に関する最新の科学的知見を広く発信することで、人々の健康寿命延伸に貢献することを目的として発足しました。

2024 年に開催した第 1 回サイエンス・セミナーでは、植物由来成分であるファイトケミカルスを持つ多様な可能性について最新の知見を紹介しました。第 2 回となる今回は、「私たちは、植物が持つ力を十分に活かしているのか」という問いを起点に、ファイトケミカルスと腸内マイクロバイオームとの相互作用に注目しました。健康寿命の延伸に向けた新たなアプローチとして、近年注目される個別化栄養（Personalized Nutrition）の可能性について議論を深めました。

冒頭で一般社団法人 国際栄養食品協会（AIFN）天ヶ瀬晴信より、「少子高齢化が進む中、健康寿命の延伸や生涯現役社会の実現に向け、科学的知見に基づき、コミュニティやグループでファイトケミカルの有用性を活用しながら、健康的な生活習慣を実践することが鍵となります。今回のセミナーで世界トップレベルの教授陣による最新研究成果を学び、生活の質（QOL）向上に役立ててほしいです」と挨拶しました。



特別講演では、東北大学教授の宮澤陽夫博士が「植物栄養が支える健康寿命」をテーマに登壇。健康寿命の延伸が重要な社会課題となるなか、野菜や果物に含まれるファイトケミカルをはじめとする植物栄養が健康維持に果たす役割について最新の知見を交えながら解説しました。また、「食ほど人類の暮らしの幸せの中核をなす根本的なものではありません」と述べ、日々の食生活の重要性を訴えました。



続いて、韓国の梨花女子大学のオラン・クオン博士は、実生活に近い食事環境で得られた研究成果をもとに、ファイトケミカルの代謝と腸内マイクロバイオーームとの関係を紹介しました。同じ食事を摂取しても、その変換能力には個人差があることを示し、その要因の一つとして腸内マイクロバイオーームが重要な役割を果たしていることを解説。「植物の力」を最大限に活かす鍵として、その重要性を強調しました。



さらに、HEM Pharma CEO のチ・ヨセフ博士は、腸内マイクロバイオーーム情報を活用したファイトケミカル代謝能力の予測技術について紹介しました。独自の解析技術と AI・機械学習を組み合わせることで、一人ひとりの腸内環境に応じた栄養活用の可能性を可視化できることを示し、個々の特性に合わせた「個別化栄養」の実現に向けた展望を語りました。



最後に、天ヶ瀬理事長をファシリテーターとし、登壇者によるパネルディスカッションを実施。「『植物の力』を最大限に活かす未来」をテーマに、健康寿命の延伸に向けた新たなアプローチである「個別化栄養」の可能性について活発な議論が交わされました。AI の活用と科学者の知見を合わせることで、今後の個別化栄養が健康寿命の延伸に貢献していくことへ期待を寄せました。AIFN は今後もオープンカレッジ事業を通じて学術情報の提供に貢献してまいります。



＜登壇者紹介＞

宮澤 陽夫 博士

東北大学 未来科学技術共同研究センター (NICHe)「先端的食品バイオ研究拠点の構築」プロジェクトリーダー
農学博士。1982 年に東北大学大学院農学研究科博士課程を修了後、食品機能学・脂質栄養学分野の研究に従事し、1998 年に東北大学大学院農学研究科機能分子解析学分野の創設教授に就任。2013 年より東北大学未来科学技術共同研究センター (NICHe)においてプロジェクトリーダー・教授を務め、2020 年から東北大学リサーチプロフェッサーを務めている。長年にわたり、多様な食品成分とその代謝物の定量法を開発し、食品の健康機能の科学的解明に取り組むとともに、食品による健康増進や疾病予防に関する機能性研究を推進してきた。また、その研究成果を活かし、多くの新食品や機能性食品の開発にも貢献している。食品科学および栄養科学分野における第一人者として国内外で高く評価されており、日本栄養・食糧学会会長、日本食品分析学会会長、アジア栄養学会連盟 (FANS) 会長・常任理事、国際栄養科学連合 (IUNS) 理事・フェロー、国際生命科学研究機構 (ILSI Japan) 理事長、バイオインダストリー協会 (JBA) 機能性食品研究会会長などを歴任し、特に海外での知名度が高く日本を代表する研究者。これまでに日本油化学会賞、日本栄養・食糧学会賞、日本農芸化学会賞、日本ビタミン学会賞など数々の学術賞を受賞。2015 年には「食品学研究」で紫綬褒章、2023 年には「教育研究功労」により瑞宝中綬章を叙勲されるなど、食品科学および栄養科学分野の発展に大きく貢献している。

オラン・クォン 博士

梨花女子大学 栄養科学・食品学部 教授／アムウェイ科学顧問委員

韓国の梨花女子大学名誉教授。行政、学術研究、そして栄養学・機能性食品分野におけるイノベーションの各分野で豊富な経験を有している。梨花女子大学着任前は、韓国食品医薬品安全庁 (KFDA) に 18 年間勤務し、韓国の健康機能食品法の制定において中心的な役割を果たした。また、米国国立衛生研究所 (NIH) において研究活動にも従事した。ファイトケミカルや植物由来機能性成分の研究から、システム栄養学および個別化栄養学へと発展し、臨床研究とビッグデータ、AI を融合した研究を推進している。現在は、栄養科学と計算科学技術を活用し、個別化栄養および健康長寿の実現に向けた実践的なソリューションの開発に取り組んでいる。アムウェイ科学顧問委員の一人。

チ・ヨセフ 博士

HEM Pharma CEO／アムウェイ科学顧問委員

韓国のハンドン・グローバル大学にて生命科学およびグローバルマネジメントの学士号、生命科学の修士号を取得後、同大学大学院にてグリーンエネルギー・環境分野の博士号を取得。2016 年から 2018 年にかけて、イスラエル工科大学 (テクニオン) 生物工学・食品工学部の客員ポストドクトラル研究員として国際共同研究に従事した。2016 年から 2019 年までハンドン・グローバル大学グローバル・グリーン研究所のリサーチプロフェッサーを務めた後、2017 年に Holzapfel Effective Microbes Inc. (現 HEM Pharma Inc.) を共同設立。CTO (最高技術責任者) を経て、2020 年より CEO に就任した。2025 年には 日本法人 HEM Pharma Japan を設立し、現在は韓国本社および日本法人の代表を兼任している。これまでに、国際プロバイオティクス・プレバイオティクス会議 (IPC) および国際有用微生物学会 (ICOBM) において、2012 年から 2014 年まで 3 年連続でヤングサイエンティスト賞を受賞したほか、2015 年には Developing Scientist Award を受賞。また、2013 年から 2015 年にかけて韓国国立研究財団 (NRF) のグローバル博士課程フェローシップに選拔されるなど、若手研究者として早くから国際的な評価を得ている。腸内微生物やプロバイオティクスに関する研究を専門とし、AI やビッグデータを活用した個別化ヘルスケアの実現に取り組んでいる。腸内環境の解析を通じて、人々の健康維持・増進に貢献する革新的なソリューションの開発を推進している。アムウェイ科学顧問委員の一人。

天ヶ瀬 晴信

一般社団法人国際栄養食品協会 (AIFN) 理事長

東北大学特任教授を経てシニアリサーチフェロー。薬剤師。長崎大学薬学部卒業後、広島大学から薬学博士 (薬理学) を授与され、1990 年から 23 年間、米国で勤務。ペンシルバニア州立大学で phytonutrients とがんの予防について研究するなど、医薬品や健康食品について、研究・開発・品質管理など多岐の技術分野に携わった。1994 年に米国のダイエタリーサプリメント健康教育法 (DSHEA) が制定される際に、クリントン大統領が指名した委員会へ提言し、また、世界各国で様々な製品の申請・登録や学術活動も行った。米国内での知己も多く、特に、アカデミアや行政機関、業界団体に太いパイプがある。2013 年に帰国し、一般社団法人国際栄養食品協会 (AIFN) 副理事長を経て、2014 年より理事長、日本ビタミン学会幹事・代議員などを経て、国際交流担当会長特別補佐などを務めている。米国制度を参考に措置された日本の機能性表示食品制度の制度設計に米国制度運用経験者として深く関わり、制度の方向性などについて国際的なシンポジウムを複数回主催。内閣官房副長官や消費者庁長官・担当官をはじめ、海外の関係有識者なども招聘して総合的に討議し、ガイドライン策定を通じて制度設計に大きく貢献した。機能性表示食品の機能のエビデンス向上や製造品質管理基準などについて業界の意見や方向性を討議し、消費者庁への提案に継続的に貢献している。

<セミナー概要>

- 日 時：2026 年 10 月 16 日（金）13:00～15:00
- 会 場：日本アムウェイ合同会社 B1 オーディトリウム（東京都渋谷区宇田川町 7-1）
- 主 催：一般社団法人 国際栄養食品協会（AIFN）
- 特別協賛：日本アムウェイ合同会社
- 登壇者：東北大学 未来科学技術共同研究センター（NICHe）
「先端的食品バイオ研究拠点の構築」プロジェクトリーダー 宮澤 陽夫 博士
梨花女子大学 栄養科学・食品学部 教授 オラン・クオン 博士
HEM Pharma CEO チ・ヨセフ 博士
一般社団法人国際栄養食品協会（AIFN）理事長 天ヶ瀬 晴信

■一般社団法人国際栄養食品協会（AIFN）について

一般社団法人国際栄養食品協会（AIFN：アイファン）は、健康補助食品全般の国際的業界団体として、1999 年の発足以来、国内外の情報を業界内はもとより、行政あるいは消費者の皆さまに、健康補助食品に関する情報、意見等を発信し、日本での健康補助食品の健全な発展に取り組んでいます。

■アムウェイについて

アムウェイは売上世界 No.1 のダイレクトセリング企業*1 です。ミシガン州エイダに本社を置き、世界 100 以上の国と地域で事業を展開しています。人々の、すこやかで、ゆたかな人生を切り開くサポートをすることを目指し、日常的に使用する様々な製品を提供しています。売上上位ブランドには、栄養補助食品の「ニュートライト™」（ビタミンおよび栄養補助食品における売上高世界 No.1*2）、スキンケアやメイクアップ製品の「アーティストリー™」（日本市場における外資系プレステージスキンケアブランド*3 のうち、日本売上 TOP5*4 にランキング）、キッチン用浄水器「eSpring™」（2009 年より過去 16 年間*5 にわたり、売上高世界 No.1）などがあり、日本では 200 以上の製品を展開しています。また、社会貢献活動の一環として、東日本大震災の被災地復興支援プロジェクト「Remember HOPE」に取り組んでおり、2022 年 9 月より子どもの貧困支援「Tomorrow HOPE プロジェクト」を実施しています。

*1 2025 年 Direct Selling News 誌の Global 100 ランキングに基づく

*2 グローバルデータ調べ： <http://gdretail.net/amway-claims/>

*3 プレステージスキンケアブランドとは、中核アイテムまたは化粧水／美容液が 6,000～10,000 円未満のスキンケアブランド 2025 年 9 月株式会社富士経済発刊「化粧品市場トレンド横断分析 2025 総括・価格帯分析編」における市場定義・ポジショニングに基づく

*4 2026 年 4 月 TPC マーケティングリサーチ株式会社調べによる

*5 2009 年、2011 年、2012 年、2014 年、2016 年、2018 年、2020 年、2022 年、2024 年のグローバルセールスに関する Verify Markets の調査に基づく。

—— 本件に関するお問い合わせ先 ——

一般社団法人 国際栄養食品協会（AIFN：アイファン）

〒163-1320 新宿区西新宿 6-5-1 新宿アイランドタワー モバフ 20F

Tel: 03-6365-0424 Fax: 050-3488-8290

公式 Web Site: <https://www.aifn.org>

事務局： info@aifn.org